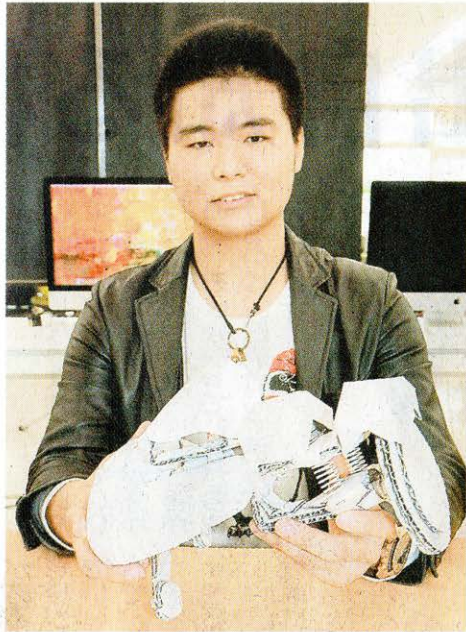


夢膨らむ「次世代の足」



崇城大2年
鈴木さん開発

両足に装着して重心移動で走行する次世代型パーソナルモビリティの開発に、崇城大芸術学部2年の鈴木智也さん(20)が挑んでいる。近未来映画やアニメの世界をそのまま実現させた、その名は「ヒーローレグ」。はじき出した市場規模は300億円に上り、成功すればベンチャーの寵児として注目を集めそうだ。

パーソナルモビリティは1人乗りの移動機器で、米国の発明家が開発したセグウェイが有名。鈴木さんはアニメなどの影響で中学時代から興味があり、高校生になるとスケートボードやローラースケートにモーターを着けて手作りしていた。転機は昨年9月。ベンチャー育成の部活動「起業部」の立ち上げに奔走していた熊野正樹准教授に作品を見せると、「ビジネスになる」と才能を見いだされ、事業化に着手。経済産業省や米大使館主催の名だたるビジネスプランコンテストでプランの採択、入賞が続き、高い評価を得てい

量産へ改良重ねる 感知速度30km/h以上の体感最高



崇城大の鈴木智也さんが開発を進める次世代型パーソナルモビリティ「ヒーローレグ」のイメージ。近未来のヒーローがさっそうと走る世界が広がる

ヒーローレグは、体の傾きを感知するジャイロセンサーを内蔵し、傾いた方向に進むようプログラムミング。ローラースケートのように両足に装着、モーターで前進する。最高時速は約30km/h。販売価格は30万円を想定している。以前の作品はモーターが弱くて進まなかったり、モーターの熱が足裏に伝わって履けなかったりと実用化が課題だった。

今回は最新のホイールインモーターを採用して課題を克服。ホンダのコンセプトカーを手掛ける県内の製作会社の協力を得て、詰めの作業に入っている。本年

自作の「ヒーローレグ」の模型を持つ鈴木智也さん。多くのビジネスプランコンテストで評価され、完成後は世界のマーケットを視野に入れる

熊本市西区の崇城大

度内に会社を設立し、改良を重ねながら量産に向けて動きだす方針だ。来年2月に試乗会を開き、投資家にアピールする。

熊野准教授が「天才肌」と絶賛する鈴木さんは高校時代、「周囲と話が合わない」と不登校になり、通信制に編入した経緯がある。大学進学は1年遅れだが、「この1年があったからこそ熊野先生に出会え、チャンスをつかんだ。夢が形になっていくのがうれしい」と控えめに喜ぶ。

崇城大は10月、米サンフランシスコのデザインコンサルティング事務所と提携し、現地にベンチャーの拠点も構えたばかり。鈴木さんは「狙うマーケットは米西海岸。サンフランシスコで流行させ、将来的には2020年の東京五輪で日本選手団に履いてほしい」と夢を膨らませる。

(福井一基)

